



一月に仙台で開催された、本特定の最大イベントである国際会議 ICFCM は盛況のうちに終了しました。このニュースレターが皆様のお手元に届くころには、プロシーディングスの編集作業も終盤戦に入っていることと思います（香取さん、頑張ってください）。さて、本会議の準備は二年程前から進めており、仙台は当初から有力候補地でしたが、懸念材料として一つは冬の仙台という点、もう一つは総括班で唯一地元の有馬さんに過度の負担をかけないかという点があったと記憶しています。

天候については、朝の強烈な冷え込みはあったものの、会議期間中は好天続きで、昼食時に街に繰り出すのも問題とはなりませんでした。会議の翌日から寒波によるダイヤの乱れがあったことを考えますと、極めて幸運に恵まれたと思います。残念ながらご欠席でしたが、本特定の評価者の松浦先生が今年のお正月も“恒例”の大吉を引かれたのではないのでしょうか！

負担については、結局のところ、有馬さんの超人的な能力に依存するところが大きかったわけですが、バイトの学生さん、秘書さんを含めローカル担当の方には感謝の言葉しかありません。経験値の低い小職には、国際会議がどのように運営されるのかをみれたのは勉強になりました。遠方からのバンケ、エクスカージョンの準備は、相手方（ホテル、酒蔵、通訳）の親切な対応のお蔭でさほど困難ではありませんでした。しかし、何を隠そう、一番苦戦したのは、バンケ代振込の銀行口座の開設です。川村特定には団体口座開設に必須の規約に相当するものがないため、最初に訪ねた都市銀行にはあっさり断られました。しかし、川村特定には百戦錬磨の先生がおられます。某先生より貴重な助言を受け、次に訪ねた銀行で開設にこぎつけました。ちなみにその某先生は森民酒蔵へは別の会議でいかれたとのこと、経験は財産です。

陰山 洋

特定領域研究「フラストレーションが創る新しい物性」

ニュースレター Vol.11

2011年3月発行

発行者	川村 光（大阪大学 大学院理学研究科）
編集担当	有馬孝尚（東北大学 多元物質科学研究所） 陰山 洋（京都大学 大学院工学研究科）
編集協力	菅谷久仁子（大阪大学 大学院理学研究科）